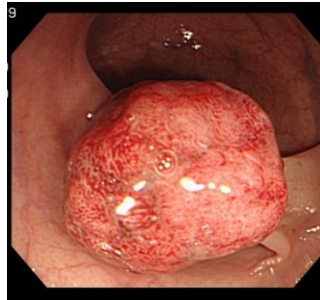


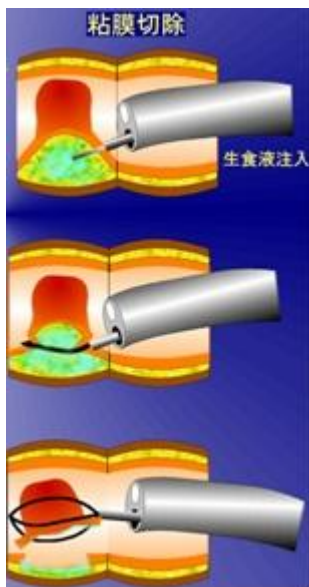
大腸ポリープ

大腸ポリープにはいくつかの組織型があり、そのなかでも最もよくみられる腺腫という種類のポリープは、一般に前がん病変と考えられています。もちろん、全部のポリープががん化するわけではありませんが、大きさ1cmを超えるポリープのうち10%ほどには、一部がん化した組織があるといわれています。また、ポリープを内視鏡的に切除することは、大腸がんによる死亡を減少させることが科学的に証明されています。



内視鏡的大腸ポリープ切除術

当院では、一泊二日でポリープ切除を行っています。



内視鏡がポリープのところまで到達したのち、ポリープの切除を開始します。ポリープの切除法は図のように、内視鏡の先から輪の形をした針金のような道具を出して、ポリープをその輪で締め上げ、さらに高周波電流を流して切除します。また、ほとんどの場合、合併症の予防のために、あらかじめ生理食塩水などを注入して、ポリープの部分を周囲の粘膜から浮き上がらせて行います。なお、切除中に痛みはまったくありません。ポリープ切除後、組織検査のためにポリープを回収して治療は終了です。ポリープが複数ある場合は、以上の操作を繰り返します。

ときに、切除後の傷口から出血がみられたり、傷口が大きくて、治療終了後に出血するおそれがある場合があります。そのような場合は、クリップとよばれるホッチキスのような道具を内視鏡の先から出して、傷口を小さな金具で閉じることがあります。この金具は、傷口がふさがると、自然に脱落し便と一緒に排出されます。

内視鏡的ポリープ切除術は、基本的には安全な治療手技ですが、治療に伴う合併症がまれに起こり得ます。その主なものは、①出血と②穿孔です。

①出血

合併症としての出血は、約1%の頻度でおくとされています。ポリープを切除してすぐに切り口から出血する場合と、治療終了後遅れて出血する場合があります。遅れて出血する場合は、治療終了後病室で血便が出たり、退院後に血便が出たりして気づきます。切除してすぐにみられる出血は通常自然止血しますが、止まりにくいと判断された場合、前述のクリップを使って止血処置を行います。遅れて出血する場合も、安静にしていればほとんどの場合自然止血します。ただ、出血が続く場合、再度大腸内視鏡を挿入して、クリップを用いたりして止血処置を行う場合があります。いずれの出血の場合も、貧血になるほどの出血が起こることはきわめてまれです。しかし、輸血を要するような出血をきたす可能性がまったくないわけではありません。

②穿孔

穿孔とは、ポリープを切除した際、深く切りすぎて腸に穴が開くことです。穿孔の起こる頻度は極めて低く、0.1%以下とされています。穿孔が起きた場合、穴が小さなものであれば、やはり前述のクリップを用いて内視鏡的に閉鎖することができます。穴をすぐに閉鎖した場合、その後特に問題となる症状が出ることはありません。大きな穴があいて、内視鏡的に閉鎖が不可能な場合は、開腹手術を行い穴を閉鎖しなければなりません。そのような大きな穴の場合は、腸の内容物や腸内細菌が腸の外へ漏れ、腹膜炎という命にかかわる感染症を起こす可能性があります。逆に、ほんの小さなピンホールのような穴が開いた場合は、治療中に発見することが不可能で、翌日など時間がたってから、腹痛、発熱などの症状が出る場合があります。このような場合は、絶食、安静、点滴などの保存的治療で改善することがほとんどです。

③その他の合併症

その他、治療の際に使用する注射などに対するアレルギー反応や、注射の副作用としての、不整脈、心臓発作、尿閉、緑内障発作、吐気、嘔吐、低血糖症状などが起こり得ます。また、治療中に腸内に入れた空気のために治療後、おなかが張ったり、おなかの張った痛みがしばらく続く場合があります。しかし、これらのことは大腸内視鏡検査のときに起こりうることとほぼ同じで、ポリープ切除に伴う合併症というわけではありません。

退院後の注意点

ポリープ切除後は約2週間、切除後の傷から出血するおそれがあります。特に、最初の1週間は出血のリスクが高いので、退院後は以下の注意点を必ずお守りください。

①食事

基本的に制限はありません。ただし、退院後1週間は、できるだけ消化のよいものを摂るよう心がけ、食べすぎないよう気をつけてください。

②アルコール

アルコールの摂取は、退院後1週間絶対に避けてください。

③入浴

湯船に浸かったり、サウナ浴は1週間避けてください。シャワー浴は結構です。

④運動、旅行

事務レベルの仕事は普通にされて結構です。しかし、重いものを持ったり、汗ばむような運動（自転車、テニス、ゴルフ、ジョギングなど）および遠出の旅行は1週間避けてください。

⑤注意すべき症状

ポリープ切除部位から出血した場合は、赤色の便が何度か続けて出ます。そのような症状がみられた場合には、ご連絡ください。少量の血が便に付着する程度で、1～2回で消失するようであれば、しばらく様子を見ていただいて大丈夫です。